

空高くトビが鳴き、畑の片隅の梅の木がちょうど満開を迎えて芳しい香りをふりまいています。

「フクシマ オーガニックコットンプロジェクト」二年目の農作業が始まりました。写真。東日本大震災後、いわき市内に広がる耕作放棄地を市民の力で食い止めようと始まった有機農法による綿花栽培の試みです。昨年一年間は全くの手探り状態でしたが、経験を積んだ今年は多くの頼もしい仲間を得て、自信を持って進められるようになりました。

ボランティアの皆さんが押す耕運機はクボタか

東北復興日記

32



NPO法人
ザ・ピーブル 理事長
吉田恵美子さん

綿花栽培2年目始動

らいわき市社会福祉協議会を介して寄贈されたものです。また、味の素冷に、ブリヂストン、東京凍食品株式会社によるスター銀行、ソニーなど「東北に元気を」明日を耕すプロジェクト」から

先日、ブリヂストンの皆さんに入っていたいだいをほころばせました。震災後三年目に入って、時計の針が少しずつ動きだしたようです。

波と放射能の二重苦を味わった場所ですが、土壌と空間の線量チェックで安全を確認しました。広野町に作物が育つ風景を再現したいとの願いを持つ鈴木郁さんと一緒に取り組めます。

鈴木さんは、いわき市内の仮設住宅にお住まいです。狭い部屋では息が詰まってしまつと、広野町といわきとを往復する

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

